

報道資料

2022年11月22日
浜松ホトニクス株式会社
一般財団法人浜松光医学財団

体動補正機能付き頭部用 PET 装置の薬事承認を取得 認知症や精神疾患の早期発見、病態解明に向け共同研究を加速

浜松ホトニクス株式会社（静岡県浜松市、代表取締役社長：晝馬 明）と一般財団法人浜松光医学財団（静岡県浜松市、理事長：晝馬 明）は、被検者の体動による陽電子放射断層撮影（Positron Emission Tomography、以下 PET）画像のボケを補正する機能を搭載した「頭部用 PET 装置 HIAS（ハイアス）-29000」を開発し、本装置の薬事承認を浜松ホトニクスが取得しました。

体動補正機能を搭載した本装置により、静止状態を保つことが困難な被検者の脳の状態を高精度に計測できることから、認知症や精神疾患の早期発見や病態解明に向けた新たな視点での研究を開始し、これまで取り組んできた共同研究を加速します。同時に、新しく得られる知見を基に画像診断法の開発も進めることで、医師の診断精度の向上や治療薬の開発促進などへの貢献が期待されます。

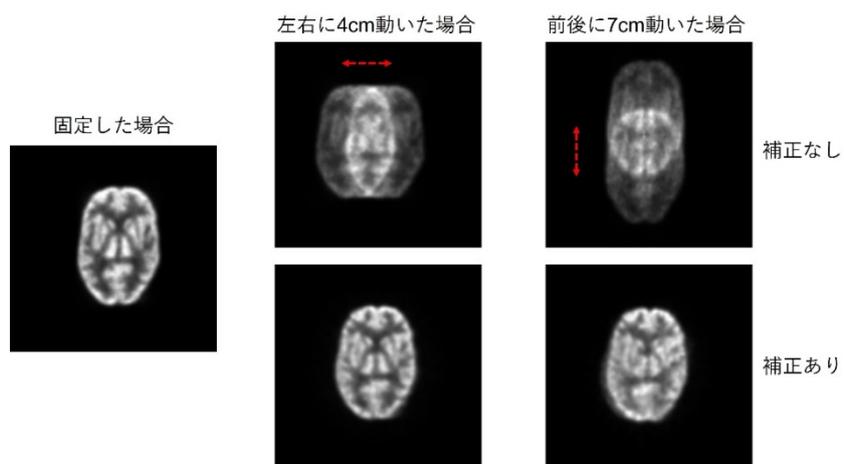


浜松ホトニクスは、70年近くにわたり光技術を応用した製品開発や光の本質を追究する基礎研究、応用研究などを進めています。この一環として、光技術を応用し多くの人が健康に生活できる長寿社会の実現に寄与することを目指す浜松光医学財団を2002年に設立しました。

浜松光医学財団は、がんで死なない、認知症で苦しめない健康長寿社会の実現を目指し、2003年に浜松 PET 診断センターを設立しました。同センターは、PET 装置によるがんや脳機能の診療、研究を実施しています。

両者は2003年より、浜松ホトニクスが開発した頭部用 PET 装置を使用し、認知症や精神疾患の早期発見、病態解明に向けた研究や画像診断法の開発を進めてきました。今までの頭部用 PET 装置では、検査中に頭部が動くと PET 薬剤の頭部における分布を正確に計測することができないため、固定具などによる頭部の固定が必要でした。長時間の頭部の固定は不快感を伴うため、固定不要の頭部用 PET 装置の開発とともに薬事承認の取得に向けた取り組みを進めてきました。

両者は今回、被検者の頭部の動きを計測し投与した PET 薬剤の頭部における分布の画像を補正する、体動補正機能を搭載した頭部用 PET 装置を開発し、本装置の薬事承認を浜松ホトニクスが取得しました。本装置により、静止状態を保つことが困難な中等症以上の認知症だけでなく、安静が保てない自閉症や多動性疾患といった精神疾患の被検者の脳の状態を、より快適な状態で計測することが可能になりました。今後、これまで体動のため高精度の計測ができなかった被検者の正確な脳機能のデータに基づく研究を開始し、認知症や精神疾患の早期発見や病態解明に向けた従来の共同研究を加速します。同時に、新たな知見に基づく画像診断法の開発も進めることで、医師の診断精度の向上や治療薬の開発促進などへの貢献が期待されます。さらに、人工知能（AI）を応用し認知症になる可能性を示す将来予測システムの実現に向け、研究開発を進めていきます。



脳の模型による体動補正のイメージ



薬事承認を取得した「頭部用 PET 装置 HIAS-29000」

【お問い合わせ先】

<浜松ホトニクス株式会社>

広報室 野末迪隆 Tel : 053-452-2141、080-8262-0374

〒430-8587 静岡県浜松市中区砂山町 325 番地 6

<一般財団法人浜松光医学財団>

浜松 PET 診断センター 岡田裕之 Tel : 053-584-6411

〒434-0041 静岡県浜松市浜北区平口 5000 番地